

### 第3回 高津川河川整備アドバイザー会議 議事録（概要版）

日時：令和4年11月1日（火）13:15～15:15

場所：益田市立水防センター

委員：五十嵐委員、石井委員、井上委員、佐々木委員、田原修委員、田原博委員、  
中村委員（欠席）、広瀬委員、藤原委員（50音順）

配布資料：・議事次第

- ・配席表
- ・高津川河川整備アドバイザー会議 設立趣旨
- ・高津川河川整備アドバイザー会議 公開規定
- ・高津川河川整備アドバイザー会議 規約（改正案）
- ・高津川水系河川整備計画【国管理区間】事業の進捗状況
- ・高津川直轄河川改修事業【事業再評価】

#### <議事>

##### ○規約について

（事務局）

- ・ 規約の目的、第2条第3項の変更については、平成30年3月30日の国土交通省所管公共事業の事業再評価実施要領の改訂に基づく変更となっている。

（委員長）

- ・ 今回の改訂案で会議を運営することで問題ないか。

（委員）

- ・ 意見なし。

##### ○進捗点検について

（委員）

- ・ 特定外来種（オオキンゲイギク）に対する対策を行うことによって、どの程度の効果があったか。

（事務局）

- ・ オオキンゲイギクの対策として、天地返しを行ってきたが処分費が多くかかるため、処分費を縮減する取組として硫安散布による試験施工を実施し、抑制が確認できた。今後は、悪影響がないかモニタリングを実施し、使用可否の判断を行う。
- ・ また、処分費についても、より安価になるよう処理場等を自治体と相談しながら進めている。

（委員）

- ・ 高津川流域は96%が山林であるため、流域治水の取組として、山林における水源かん

養の取組が重要と考える。そのような取組があれば教えて頂きたい。

(事務局)

- ・ 山林の取組については、流域治水協議会において、関係する機関からこのような取組を行っているとの報告を受けている。今後、流域治水協議会の中で各機関から取組報告が行われるので、報告があれば情報を提供する。

(委員)

- ・ 高津川の河口砂州において、今年はコアジサシの営巣が見られなかった。天気等の影響もあるが、昨年度の下流部の河床掘削の影響も多少はあると考えられるので、注視しておくべきである。次の鳥類の調査は10年後とのことだが、長すぎると考える。
- ・ 高津川は、少しの雨でも増水し、雨が降らないと川底が見えるほど水量が低下するので、流域治水としていろいろな機関が協力して山林の保水力を高める取組を行うことができたらと思う。

(委員)

- ・ 高津川には、排水機場が少なく、排水ポンプ車も1台のみであるが、今後増やす計画はあるのか。

(事務局)

- ・ 新たに追加することは難しいが、大規模水害が発生した際は、水害発生への恐れが無い他の河川事務所等から融通してポンプ車を追加配備する。

(委員)

- ・ 流域治水プロジェクトにおける“掘削土を活用した高台整備”とはどのような計画か。

(事務局)

- ・ 高津川の下流部左岸側の高津地区の益田道路の盛土区間に対して、掘削土を活用した高台整備を行う。

(委員)

- ・ アユのモニタリング調査方法について、アユの状況をより正確に把握することが重要であるため、間接的な調査ではなく、直接的に調査する方がよいと考える。
- ・ 高津川にとって「アユ」を守り、育てることが大事。全体的にアユの生息について配慮をお願いします。
- ・

(委員)

- ・ 高津川を市民の川にしたい。以前、市民を入れて産卵場の整備を行ったことがある。今後も機会があれば、このような活動を行いたい。

(委員)

- ・ 高津川はダムが無いので、洪水被害発生先読みがしづらいと思うが、何か工夫や今後実現したい仕組みなどはあるか。

(事務局)

- ・ 高津川の水利用は、農業用水と発電用水である。このため、洪水時の対策としては、農業利用を抑えていただくしかない。
- ・ 今後実現したい仕組みについて計画は無いが、正常流量を下回る場合は洪水調査を実施し、河川管理者で出来る工夫については実施していきたい。

(委員長 (まとめ))

- ・ いろいろな意見があったが、まとめると、進捗としてはかなり進んでいる。今後も、今回頂いた意見を踏まえて、整備を進めることとする。

## ○事業再評価について

(委員)

- ・ 残存価値の対象となる施設は何か。

(事務局)

- ・ 堤防や護岸等について、50年後の残存価値を見込んでいる。

(委員)

- ・ ポンプなどは50年持たないと思うが、それらの更新費用は入っているか。

(事務局)

- ・ 今回の事業では見込んでいない。

(委員)

- ・ 今後の事業進捗に伴う浸水家屋数の減少数が整理されているが、このように浸水家屋数が確実に減ると住民に喜ばれることなので、事業を着実に進めて欲しい。

(事務局)

- ・ 治水事業を効果的・効率的に進めるためにも、市街地の掘削を着実に実施し、その後は、霞堤の周辺も掘削を進めていきたいと考えている。なお、霞堤地点の水位は、実施済みの安富地区の掘削により、掘削前に比べると低下している。また、土砂堆積している箇所についても、今後しっかりと対策していく。

(委員長 (まとめ))

- ・ 事業継続とする。

<まとめ>

(事務局)

- ・ 本日の意見を踏まえ、事業計画に基づき、整備を進めていきたいと考えている。なお、進捗点検は基本的に5年に1回の開催となっているが、社会情勢によって臨時に開催することもあるので、その際にはよろしく願います。
- ・ 事業評価の審議結果については、事業評価監視委員会に報告する。
- ・ 以上をもちまして「第3回高津川河川整備アドバイザー会議」を閉会とする。

以上